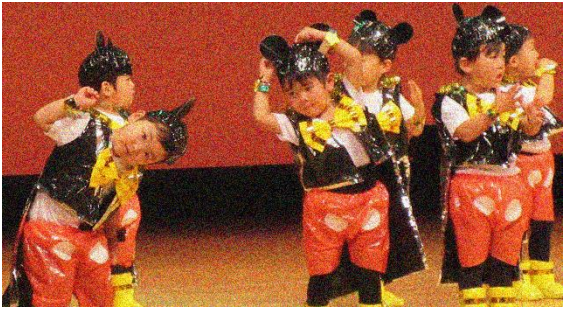


練習の成果を存分に発揮することができたクリスマス発表会！(No. 2)



プログラム4番は、乳児棟「メロン組」によるお遊戯「ジャンボリ ミッキー」です。振り付けは、メロン組担任の純愛先生と由貴先生が、「踊りやすい。すぐ覚えられるように繰り返しを多くする。」ことを念頭に考え、衣装は本物のキャラクターにできるだけに似せるように工夫したそうです。練習は11月中旬頃から、「朝の体操」の時間に行っていました。練習が始まると、毎日「早くミッキー踊りたい」と言うほど練習を楽しみにしていました。当日の発表会では、お父さん・お母さんと離れるときに泣いてしまう子もいましたが、本番が始まると泣き止んでステージに立つことができました。そして、2歳児とは思えないくらい音楽に合わせて元気よく踊ることができました。12月2日にメロン組のお部屋で、先生やバナナ組のお友だちの前で「ミニ発表会」を行ったことが、いい経験となっていたのかもしれません。終わった後、「楽しかった～！」と言う子ども達が沢山いました。

プログラム5番は、年長の「さくら組」による「オペレッタ：ピーターパンのぼうけん物語」です。ロンドンに住む少年3人のもとにピーターパンが現れ、一緒にピーターの住む「ネバーランド」へ飛び立ちます。その途中、いろいろな冒険をすることになります。練習で工夫したところは、「一人で踊る場面では、できるだけ大きな身振りで目立つようにすること」、「ワニに追われる場面では、ビックリして後ずさりしながら尻餅をつくタイミングを考えて演技をすること」、「歌の場面では大きな声で歌うこと」などです。本番では練習の成果が発揮でき、一番上手に演技をすることができた

そうです。発表会が終わった後もお部屋で、自分たちで歌を歌って踊ったり、おもちゃの剣を持って「今度は俺がピーターパンをやる」などと言って、友だちの役を演じたりしていました。

プログラム6番は年中の「ひまわり組」による「お話ミュージカル：金のがちょう」です。見どころは、「みんながつながってしまう場面、上手にくっく

ことができる息の合った演技」と「家来と王様の力強い演技と、お姫様のおしとやかな踊りの対比」です。練習の時から使う材料を自分たちで気づいて準備をしたり、自分の演技だけでなく友だちの演技も覚えてしまったりする程、発表会に向けて集中し

て練習し取り組んできた「ひまわり組」のお友だち。本番でも高い意識をもち、曲に合わせて元気いっぱい演技することができました。(1～3段目)メロン組の可愛いお遊戯の様子！軽くモザイク処理。(4～6段目)さくら組の演技！さすが年長さん！(7～最後)ひまわり組の演技！息が合っていたね！